

準備不足・チェック漏れ・仕業検査切れ・連日の超勤…

外注化で職場の連携はズタズタ！

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029・227・6020

FAX 029・227・6291

何の準備もできていない
会社MTS

10月16日、外注化以降2回目となる団交が開催された。前回の10月9日の団交では、請負会社であるMTSでは、作業を行うに必要な用具はおろか、作業要領などの規程類すら整備されていないこと、制服やヘルメットは暗闇では見えにくく危険であること、パンスリ検査装置の取り扱いが不明確なことなど、基本的なことから全く準備できていないことが報告された。会社は、「問題点は一つひとつ改善する」と回答したが、本来ならば10月1日の時点でできていなくてはいけないことだ。これ一つを取っても、MTSがいかに業務を受託するにたりえない会社だということが分かる。

業務委託で安全・安定が崩壊している！

今回の外注化が原因で、10月12日には、本来されるはずの汚物抜きがされずに汚物タンクが満杯になり、車両交換するという事象が発生している。更にも他支社では、仕業検査の切れた車両が運用に

使用されるという事象までも発生している。確かにこれまでも仕業切れは幾度となく発生してきた。しかし今回の事象は、業務を分割し、連携を壊し、仕事をやりにくくしたことが原因だということを経営も認めている。幕張では、仕業検査のカウント日数を偽って検査計画を立て運用に使用し、豊田では、検査切れは分かっていたが、夜間に作業調整がつかなかったから検査切れを承知で運用に使用した。コンピュータンス遵守を謳っている会社は、乗客や社員の安全に大きく結びついていることを重々承知で、ウソや隠ぺいではか鉄道を動かすことができなくなっている。「こんな施策は今すぐ中止すべきだ」と迫り、さらに外注化以降職場から挙げられている問題点や要求を読み上げると、会社の人間は終始うつむいてしまい、何も言えないという状況で、やっと出た言葉は「問題は一つひとつ改善していきたい。この施策が一つもスムーズに推移していないことを認めざるを得ない状況にまで追い込んでいます。」

改悪された労働条件

次にMTSでの休日数について、



労働者集会で発言する照沼組員(11月4日)

「JRよりも5日休日が減ることに對して、出向手当を月2500円支払うと言っているが、その根拠は何か。意味合いは何か？」と追及すると、「本社とグループ会社間で決めたことで計算式はない。支社では分からない」。さらに「この手当は、労働時間が長くなっていることに對して少しでも補ってやるために支払うもので、出向手当ではなく出向特別措置である」と回答した。年間で3万円、1日当たり6000円。出向者全員が損をすることは明らかだ！「明らか

に目減りしている。労働条件が低下している」と言うのと、「確かに給料は目減りしている」と渋々認めるも、「しかし、労働条件の低下とは考えていない」と回答。給料は減っているのに労働条件は低下していないという会社の考えに納得できるだろうか？

労働条件が悪くなったのは
本体社員も同じだ！

出向に出された社員の労働条件が悪くなっているのは明らかだが、本体に残った社員も労働条件は悪くなっている。勝田の運用担当者、これまで2人で、かつ泊まり勤務の中で行っていた「清掃発注書のチェック」や「入換計画書の確認」という業務量を1人で行うようになった上、日勤でやらされるようになった。当然ながら時間内に終わらず連日超勤が発生している。超勤対策として会社は「清掃発注書のチェックは助役がやる」としたが、発注書の作成もできない助役がチェックしていることで、チェック漏れが発生し、10月12日の車両交換をするという事象を招いている。さらに用品担当は、今までは3人で分担していた仕事を、出向2人、本体1人と分割したことで、本体の業務量が大幅に増えている。会社は委託前から「確かに用品担当の仕事量は増えるが、その分事務の仕事量が減るのでそこをフォローする」と言っていた。しか

し、事務担当への教育も不十分で、用品担当の仕事へのフォローに入る暇もなく、用品担当は休めばその分仕事が多くなり、用品担当が不在の時は誰も電話に出ないというのが現実だ。

今こそ総団結し、外注化を撤回させよう！

今回の外注化で本体業務が大幅に削減されたことは言うまでもない。更にそれに伴って80名もの仲間が出向に出されている。当初会社は、「多少の前後はあっても基本的には3年で戻す」と言っていたにも関わらず、先日行われた出向社員の個人面談では支社の人事課は「今回の出向は外注化に伴う出向。片道切符だから、3年後に戻れる場所はない」と断言した！会社は「ただウソつきなのか？こんなインチキを許しているのか？こんなことを許していたら、労働者は会社のいいコマとしてしか扱われなくなってしまう！しかし、労働者が一つひとつの事象をしっかりと問題認識し、その問題をしっかりと闘いにしていくことで必ず外注化は粉碎できる。職場の連携・団結を解体し、鉄道の安全を崩壊する外注化をこれ以上放置してはいけない。外注化決戦はまだ始まったばかりだ。今こそ、労働者の総団結で闘おう！」